サビエル生誕五百年
巡礼の道
583

藤屋 侃士
（下松市南ケ丘）

ノスタルジアとは
～駆け足・台湾5日間⑦～

今回の台湾周遊5日間の旅、コース・内容は同じでも、出発日によって料金が異なる。最高は年末の12万99００円、一番安い時で4万99００円とかなり格差がある。私の場合は6万99００円、夕食が2回ついていないが、4泊5日食事8回付きのこのツアーは国内旅行に比べて安い。

旅の楽しみの一つは非日常性。安いばかりでなく多少のぜいたくも交え、旅にメリハリをつけようと、最後の台北のホテルはオプションで1人1万円追加して台湾を代表する宮殿風のスーパーデラックスホテル「圓山大飯店（まるやまだいはんてん）」に泊まった。もともと迎賓館として建てられたもので、地上12階。世界十大ホテルに選ばれたこともある。

私たちより一足早く台湾の旅を楽しんだ次女、家はもっと安いホテルに台北3連泊。その際、ガイドが「圓山大飯店はロビーを見るだけで価値がある」と言われたそうだ。確かに演奏会でも出来そうな広々としたロビー。吹き抜けの2階の周囲には店が並ぶ。帝国ホテルもそうだが、宿泊するだけでなく、滞在する癒やしの空間である。

ロビーの左側は各種レストランや喫茶店。フロント横にはガラスで出来た写真のような動物たちが華やかさを添える。たった1泊ではあったが、安いツアー全体を豪華な旅にしてくれた。

長女がたくさん撮った写真のどれを掲載しようかと悩んでいると、山口に住む次女から電話がかかる。今、TBS系列の"世界ふしぎ発見"で「台湾鉄道で行く～昭和ノスタルジーの旅」を放送していると言う。

台北と高雄を結ぶ台湾新幹線は別として、現在の在来線のほとんどは戦前の日本統治時代に日本によって作られた。今回はほとんどバスで移動したが、太平洋側の北東部を2時間だけ列車で旅した。そこで初めて台湾の駅弁を食べた。内容は日本の幕の内弁当だが、表示が「便当」とある。

テレビでは昔の日本と同じように停車の度に「便当!!便当!!」と、背から前の「便当」を箱に入れて売る風景が写された。が、台湾でも最近は弁当売りはなくなったという。

列車といえば、南の高雄駅のすぐ近くの美麗島駅は天井一面ステンドグラス、世界で一番美しい駅として有名だ。最近完成した台湾新幹線も日本の新幹線技術の輸出で作られたもの。日本の戦前の統治を正当化するつもりは毛頭ないが、テレビで放映されたように台湾に日本の昭和ノスタルジーを私も感じた。

ただ、自分が理想とする過去、自分の都合の良い過去、現実からの逃避という意味がノスタルジアの中にあることを忘れてはなるまい。

圓山大飯店

世界一美しいといわれる美麗島駅

光り輝くロビーの動物たち

台湾の駅弁